

ハ之ヲ爲サ、ルモノトス

會社重役ノ賞與金ハ前項總損金ノ内ニ算入セサルモノトス

本條ノ納付金ハ決算認定後十五日以内ニ完納スルモノトス

第三條 會社ハ市ノ要求アルトキハ前二條ノ損益計算ヲ證明スルノ義務アルモノトス

第四條 市ハ前三條ノ場合ニ於テ其計算ノ當否ヲ調査スルノ必要アルトキハ會社ニ對シ

營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ帳簿、財産、營業ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルモノトス

第五條 市ハ其ノ所有又ハ管理スル道路、橋梁、堤塘、公園其他ノ土地、工作物ニ對シ

會社ノ營業上必要ナル埋管其他ノ装置ヲ爲スコトヲ承認スルモノトス

第六條 會社ニ於テ前條ノ土地、工作物ヲ使用セムトスルトキハ豫メ設計書ヲ提出シ市

ノ許可ヲ受ケテ其命令ニ遵フモノトス

但會社事業ノ爲メ特ニ市ノ施設ヲ要スル場合ハ其費用及之レカ爲メニ市ノ受ケタル

損害ハ會社ニ於テ負擔賠償スルモノトス

第七條 市ハ一般ノ市稅ヲ除クノ外第六條ノ使用ニ對シ何等ノ料金又ハ市稅ヲ賦課徵收

セサルモノトス

第八條 市ハ本契約有効期間中ハ自ラ瓦斯事業ヲ經營セス又新ニ生スル瓦斯事業者ニ對

シ第六條ノ承諾ヲ與ヘサルモノトス

第九條 會社ハ本契約締結ノ日ヨリ滿二十五ヶ年ヲ經過シタル後市ノ希望ニ依リ其ノ營

業及之ニ必要ナル物件全部ノ買收ニ應スルモノトス

會社ニ於テ存立期間中廢業ヲ爲シ又ハ其營業物件ノ全部若クハ一部ヲ讓渡サムトスル

トキハ市ハ他ニ優先シテ之ヲ讓受クルノ權利アルモノトス

第十條 前條營業全部ノ買收價格ハ本市内公ノ市場ニ於ケル會社株式ノ三ヶ年平均相場

ニ依ル

但其ノ平均相場カ右三ヶ年間ノ利益配當平均年額二十倍以上ナルトキハ其二十倍額

ヲ以テ買收價格ト定ム

營業一部ノ買收價格ハ市會社双方ヨリ評價人各二名ヲ選出シ其多數ノ決スル所ニ依ル

若シ評價人ノ評價價格決セサルトキハ該評價人ノ選定シタル評價人一人ノ評價價格ヲ以テ

定ム

第十一條 會社ニ於テ瓦斯料ノ引上ケ營業種目ノ増減、變更、資本ノ増減、會社株金拂

込額ノ半額以上ノ社債募集、會社ノ合併若クハ營業物件ヲ義務履行ノ擔保ニ供セムト

スルトキハ市ト協議シテ其承認ヲ得ルモノトス

前項ノ協議整ハサルトキハ前條第二項ノ例ニ準シ調停委員ヲ選出シテ其調停ニ依ル

第十二條 本契約有効期間ハ本契約締結ノ日ヨリ向フ二十五ヶ年間トス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得

一、會社カ本契約ノ義務ヲ履行セサルトキ

二、會社設立登記ノ日ヨリ二ケ年以内ニ營業ヲ開始セサルトキ  
 三、一ケ月以上休業シタルトキ  
 前項契約解除ノ場合ニ於テハ會社ハ市指定ノ期間内ニ第六條ノ理管其他ノ裝置ヲ撤却  
 シ原形ニ復スルモノトス若シ之ヲ履行セサルトキハ其物件ハ當然市ノ所有ニ歸シ尙損  
 害アルトキハ之カ賠償ニ應スルモノトス  
 第十四條 法令ノ結果本契約ヲ無効ニ歸シ又ハ其條項ニ變更ヲ及ホスコトアルモ會社ハ  
 市ニ對シ何等ノ要求ヲ爲サルモノトス  
 右契約ノ正確ナルコトヲ證スル爲メ本證二通ヲ製シ當事者双方署名捺印ノ上各一本ヲ保  
 有スルモノ也

名古屋市參事會

明治四十年五月十三日

名古屋市長

名古屋瓦斯株式會社

取締役社長

### 屎尿汲取ニ關スル契約

明治四十四年度  
第三百三十八號議決

本市ノ處分權ニ屬スル屎尿ノ汲取ニ關シ別紙ノ通契約ヲ締結ス

(別紙)

契約書

名古屋市長阪本鈺之助ヲ甲トシ興農株式會社創立發起人吉田高朗外八名ヲ乙トシテ左ノ  
事項ヲ契約ス

- 一、別紙契約ニ基ク一切ノ權義ハ興農株式會社成立ニ至ル迄乙ニ於テ履行シ會社成立ノ  
上ハ之ヲ繼承セシメ同一ノ契約書ヲ交換ス
  - 二、會社ノ定款ハ豫メ市長ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 右契約ヲ證スル爲メ本書二通ヲ作製シ記名調印ノ上各一通ヲ所持スルモノ也

年 月 日

甲 名古屋市長 氏

名 印

乙 興農株式會社創立發起人

住所

氏

名 印

住所

契 約 書

以下 連 氏 名 署 印

名古屋市ノ處分權ニ屬スル尿尿ノ汲取ニ關シ名古屋市ヲ甲トシ興農株式會社ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 本契約ニ於テ甲ノ處分權ニ屬スル尿尿トハ市ノ區域内ニ於ケル尿尿ノ内左ノ各號ヲ除キタル殘部ヲ總稱ス

- 一、稻永新田、千年、熱田新田東組、熱田前新田ノ各字ニ於ケル尿尿
  - 二、熱田神宮、離宮、師團、官廳(縣廳警察官署)、官立學校、停車場等(郡役所ヲ除ク)
  - 三、前項ノ外市ノ住民ニシテ從來ノ慣行ニ依リ自家用耕作物肥料ニ供スル部分ノ尿尿
- 但本號自家用者ノ數ハ一千戸ト假定ス

第二條 甲ハ自己ノ處分權ニ屬スル尿尿ノ汲取ヲ明治四十五年四月一日ヨリ明治五十一年三月三十一日迄六ヶ年間乙ヲシテ請負ハシムルモノトス

第三條 乙ハ尿尿代一ヶ年金拾貳萬圓ノ割ヲ以テ甲ニ納入スヘシ但明治四十五年度前半期分ハ之ヲ免除ス

第四條 尿尿代ハ之ヲ折半シテ二期ニ分納スヘシ其期限ハ四月一日ヨリ九月三十日マテヲ前期トシ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ後期トシ各期限經過後二十日以内ニ

納入スヘキモノトス

第五條 乙ハ尿尿ノ汲取方法ニ關シテハ明治四十五年二月縣令第二十二號ニ據ルノ外左ノ各號ヲ遵守スルモノトス但公設便所ニ對スル防臭劑ノ撒布ハ市ニ於テ之ヲ行フ

- 一、市街地外ニシテ衛生上無害ノ場所ヲ選ヒ五ヶ所以上ノ尿尿貯溜場ヲ設クヘシ但五ヶ所ノ總容量ハ少クモ三萬石以上タルヲ要ス
- 二、貯溜場ニハ看守人ヲ常置シ諸般ノ取締ニ當ラシムルト同時ニ常ニ清潔方法ヲ嚴行シ衛生上毫モ危害ナカラシムルヲ要ス
- 三、傳染病毒潜伏ノ虞アル尿尿ハ理化學的消毒ヲ行フヘシ
- 四、尿尿容器及運搬器等ノ種類構造員數ハ甲ノ指示ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ
- 五、五ヶ所以上ノ事務所ヲ市内若クハ其附近ニ設ケ汲取ニ關スル諸般ノ事務ヲ取扱フヘシ但事務所ニハ必ス電話ヲ架設スヘシ
- 六、事務所ニハ事務員及汲取人夫若干名ヲ常置シ且ツ汲取ニ要スル器具車輛等ヲ準備シ尿尿停滯ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ處置スヘシ
- 七、尿尿ノ汲取ハ親切丁寧ヲ旨トシ毫モ不都合ノ行爲アルヘカラスルハ勿論汲取人ハ汲取後其周圍ヲ適當ニ掃除シ清潔ナラシムヘシ
- 八、事務所貯溜場ノ位置并ニ構造方法ハ豫メ甲ノ承認ヲ受クヘシ消毒所ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

九、尿ノ汲取ニ關シテハ第三者ノ所爲ト雖モ乙ニ於テ其責ニ任スヘキモノトス

十、法令ノ改廢監督官廳ノ命令又ハ甲ニ於テ汲取方法ノ改善ヲ必要ト認メタルトキハ

甲ハ乙ニ對シ之カ施行ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 乙ハ請負保證金トシテ尿尿代金一ケ年分ノ百分ノ十五ヲ年度始メニ於テ甲ニ納入スヘシ

第七條 乙ハ其定款ヲ變更シ又ハ資本金ヲ増減シ若クハ社債ヲ起サムトスルトキハ豫メ

甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第八條 甲ハ乙ノ業務ヲ監督スル爲メ何時タリトモ事業ノ報告ヲ徵シ又ハ帳簿并ニ諸般ノ文書ヲ檢閱スルコトヲ得

第九條 乙ハ年度經過後二十日以内ニ事業ノ成績ヲ甲ニ報告スヘシ

第十條 乙カ第三者ト尿尿ノ取引ヲ爲ス場合ハ其尿尿代ノ標準ハ大人ハ一ケ年五拾錢

以下小人(十才未満ハ之ヲ除ク)ハ其半額以下ニ下スコトヲ得ス

特殊ノ事情ニ依リ前項ノ標準ヲ變更スルノ必要アルトキハ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第十一條 乙ノ損益勘定ハ豫メ甲ノ承認ヲ受クルヲ要ス

乙ノ配當金年百分ノ六ニ達セサルトキハ甲ハ本契約實行期間(初年度ハ之ヲ除ク)ニ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但補給額ハ如何ナル場合ト雖モ拂込資本金ノ百分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス

乙ノ配當金年百分ノ八以上ナルトキハ其超過シタル利益ノ半額ヲ甲ニ提供スヘシ

第十二條 乙カ天災地變、傳染病流行、尿尿自家用者ノ増加、汲取方法改良命令ノ實行

其他正當ノ理由ニ因リ一廉ニ對シ貳百圓以上ノ損害ヲ受ケタルコトヲ甲ニ於テ承認シ

タルトキハ甲ハ該損害ニ相當スル金額ヲ第三條ノ納付金ヨリ扣除スヘシ

前項ニ基ク尿尿代ノ計算ハ第十條ニ依ル尿若クハ尿ノ一方ヲ使用シタル者ニ對スル計算ハ其一方ヲ五分トス

第十三條 乙ニ於テ本契約不履行ノ場合ハ催告シ之ニ應セサルトキハ甲ハ何時タリトモ

本契約ヲ解除シテ保證金ヲ沒收シ又ハ甲ニ於テ適宜執行シ其費用并ニ損害ハ保證金ヨ

リ引去リ尙不足アルトキハ追徴スルモノトス

第十四條 傳染病毒潜伏ノ虞アリト認ムルトキ又ハ加工處分ヲ必要ト認ムルトキハ甲ハ

其汲取區域ヲ指定シテ乙ニ對シ加工處分ヲ要求シ又ハ甲自ラ爲シ若クハ第三者ヲシテ爲サシムルコトヲ得

第十五條 甲若クハ第三者ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ第十條ノ標準ニ基キ日割

計算ヲ以テ算定シ納入金ヲ減額スルモノトス

### 市金庫事務取扱ニ關スル契約

明治四十五年度第八十八號  
市參事會議決

#### 契 約 書

名古屋市金庫ノ事務ヲ株式會社名古屋銀行株式會社明治銀行株式會社愛知銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付名古屋市ト前記三銀行トノ間ニ契約スル條件左ノ如シ

第一條 名古屋市金庫事務取扱期間ハ明治四十五年四月一日ヨリ四十八年三月三十一日迄滿三ヶ年トス

第二條 銀行ハ三銀行連帶責任ヲ以テ市金庫ニ關スル規定ニ從ヒ其現金ノ保管及出納事務ヲ取扱フモノトス

第三條 銀行ハ市金庫事務取扱ニ相當スル人員ヲ配置シ處務ニ遺憾ナカラシムルモノトス

第四條 市金庫ノ派出所(市役所區役所ノ派出所ハ除ク)ニ於テ市稅及國稅縣稅ノ收納ヲ爲ス場合ハ納期ヲ經過シタルモノ及毎月二十八日以後ハ其取扱ヲナサ、ルモノトス

第五條 市ノ公債利子支拂ニ關スル事務ヲ市金庫及市金庫ノ派出所ニ於テ爲スノ外市ノ指定スル地方ニ取扱店ヲ設ケ其事務ヲ取扱フモノトス

市ハ前項利子仕拂事務取扱手数料トシテ利子支拂高ノ千分ノ一ヲ銀行ニ仕拂フモノトス

第六條 銀行ハ運用金ニ對シ百圓ニ付日歩五厘ノ利ヲ市ニ納付スルモノトス  
前項運用金ハ市金庫現金中市費ニ屬スルモノ、毎日ノ殘高トス

第七條 市ハ市金庫事務取扱ニ關スル一切ノ費用トシテ第五條第二項ノ外ニ手當金ヲ銀行ニ交付スルモノトス

前項金額ハ毎年度市ニ於テ之ヲ定メ年度ノ終月ニ交付ス但明治四十五年度ノ額ハ七百五拾圓トス

契約解除ノ場合ニ於テ一ケ年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ其際之ヲ交付スルモノトス

第八條 市ハ市金庫ノ監督上必要ト認ムルトキハ市金庫ニ對シ隨時命令スルコトアルヘシ但之カ爲メ費用ヲ要スルモ市ハ第七條手當金ノ外別ニ費用ヲ交付セス

第九條 市收入役ニ於テ市金庫ノ現金帳簿ヲ檢査スルニ當リ必要ト認ムルトキハ銀行ノ本店、支店、出張店、本業部ノ金櫃帳簿ヲ檢査スルコトアルモノトス

第十條 市ハ銀行ニ於テ其義務ヲ履行セサルトキ若クハ市ノ都合ニ依リ此契約ヲ解除シ又ハ契約ノ條件ヲ改正スルコトヲ得

第十一條 契約解除ノ場合ニ於テハ解除ノ日ヨリ五日以内ニ保管現金及帳簿等市金庫事務ニ關スル一切ノ書類ヲ市收入役若クハ市收入役ノ指定シタル者ニ引繼クモノトス

前項ノ日限内ニ引繼ヲ爲サ、ルトキハ市ハ催告ヲ要セス任意ニ擔保物件ヲ處分精算シ剩餘金ハ之ヲ返付ス

但不足ノ場合ハ追徴スルモノトス

第十二條 銀行ハ擔保物件ノ差入引出其他ノ要件ヲ處辨スヘキ代表者ヲ定メ契約後三日以内ニ市ニ届出ルモノトス

右契約ヲ證スル爲メ本證二通ヲ製シ一通ヲ市長ニ一通ヲ銀行ニ所持スルモノナリ

第十五類  
雜

第十四類 請負及契約

四十八

第十五類  
雜

第十四類 請負及契約

四十八



市 徽 章	.....	一
市長以下提灯徽章	.....	三
市 歌	.....	五
區設置ノ件	.....	七
擔保公債證書價格ノ件	.....	一
市吏員使丁過怠金徵收手續	.....	三
服忌令減殺表	.....	五

市 徽 章

本市ノ徽章ヲ左ノ通り相定ム

明治四十年十月二十日  
告示第九三號



市徽章	一
市長以下提灯徽章	三
市歌	五
區設置ノ件	七
擔保公債證書價格ノ件	一一
市吏員使丁過怠金徵收手續	一三
服忌令減殺表	一五

### 市徽章

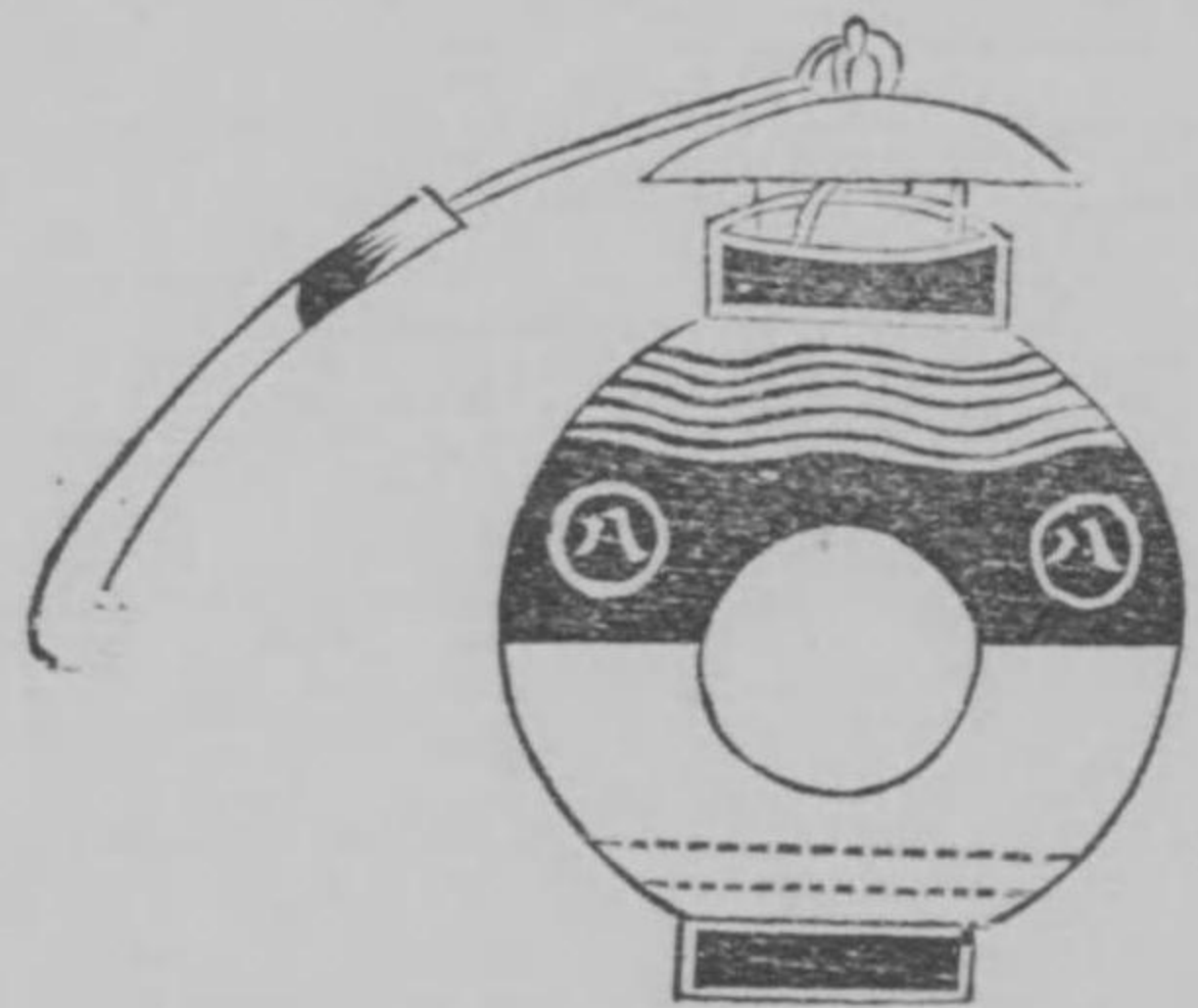
本市ノ徽章ヲ左ノ通り相定ム

明治四十年十月二十日  
告示第九三號

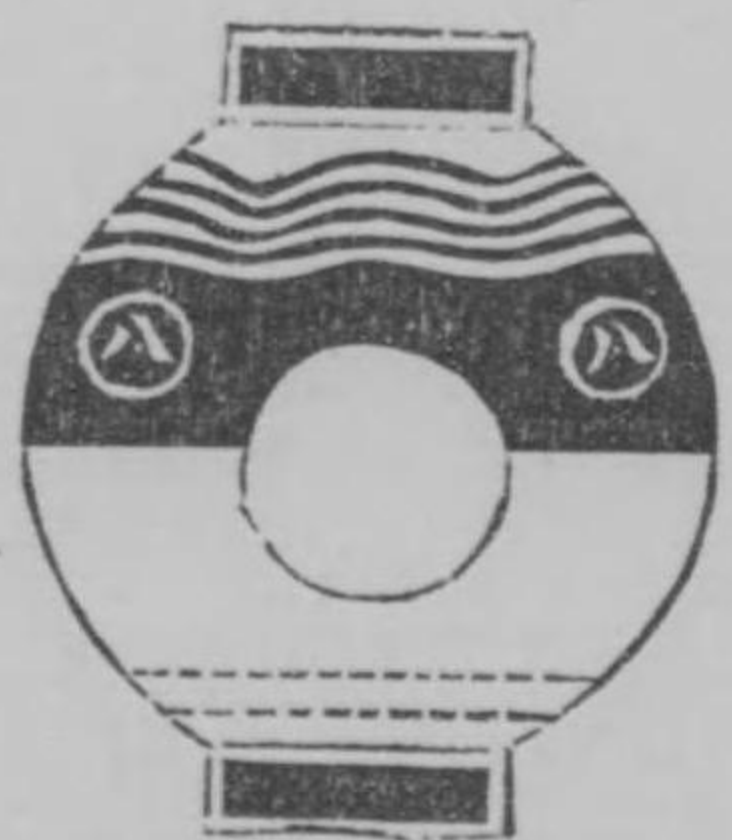


市長以下提灯徽章

市長



助役、收入役



大正二年二月二十四日  
名古屋市告示第十六號

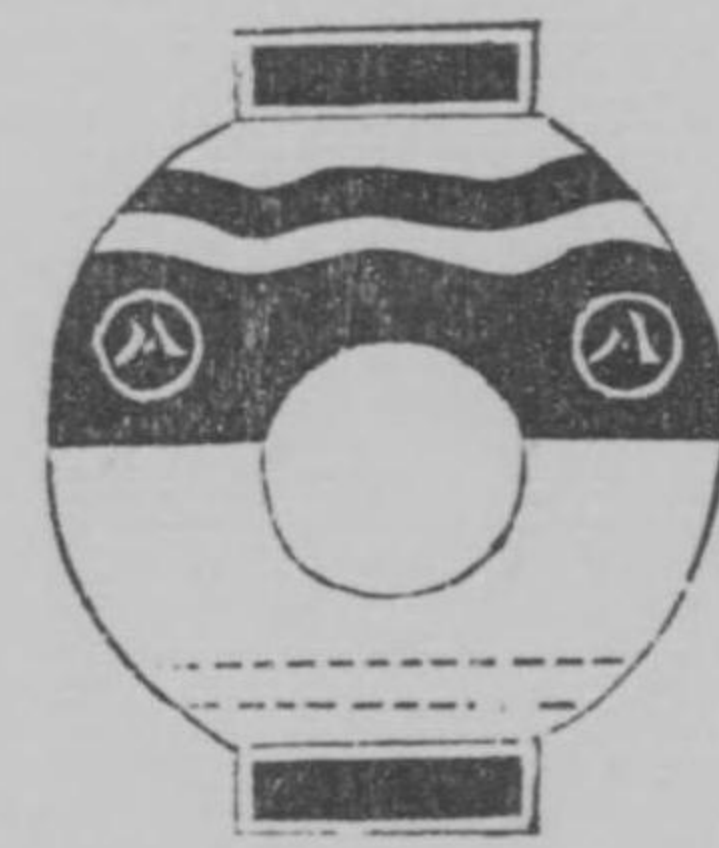
市書記、技手、區書記、  
掃除監督、水道書記、  
水道技手



區長、技師、視學、  
掃除監督長、課長、  
タル市書記、水道  
技師長、水道技師  
水道事務長、水道  
技師  
設委員



掃除巡視、水道書記補  
水道技手補



右圖中

- 一、上半部ノ彩色ハ總テ赤色
- 一、(八)徽章ハ白色直徑一寸五分ノモノ三箇トス
- 一、中央〇ノ中ハ所有者ノ紋章ニシテ黒色直徑三寸以内ノモノ三箇トス
- 一、下部ノ点線ハ字繋キ又ハ記シ繋キ等各自適宜

*mp* *du*

あすのたきのき  
 夕なせみのが  
 かまみかこぜ  
 に

むらりくも  
 はれがて、  
 をなしかく  
 ち

*mf*

とがさか  
 ののぼる、  
 あつこひ  
 の

*cresc.* *rit.*

かかやかく  
 まちの、  
 ひかりレ  
 かな

市歌

(明治四十三年二月二十八日  
告示 第四號)

這般本市々歌ヲ左ノ通制定セリ

名古屋市歌

熱田の宮の神風に  
豊榮のぼる天津日の  
正しき民がまごころに  
黄金の城のどこしへに

叢雲はれて雄々しくも  
かゞやく市の光かな  
いそしむ業の花咲きて  
たかきは市の譽かな

### 區設置ノ件

(明治四十一年三月十二日  
告示第一八八號)

市制第六十條ニ依リ事務處辨ノ爲メ其筋ノ許可ヲ得タルヲ以テ明治四十一年四月一日ヨ  
リ本市ヲ四區ニ分チ各區ニ區役所ヲ置ク其區ノ名稱位置及區域左ノ如シ

愛知縣名古屋市各區管轄區域表

區	東	區ノ 名稱	區役所 ノ位置	管轄町名				
番地	十二	町三	布池	屋市	名古屋			
端、東矢場、東芳野、東本重、東二葉、東魚、東主稅、東門前、	武平 <sub>自一丁目至二丁目</sub> 、下豎杉ノ、新出來、白壁、城番、清水、槿木、東片	朝日、安房、葵、坂上、櫻、京、宮、東白壁、南外堀 <sub>自七丁目至三丁目</sub> 、南	富士塚、武平、小市場、吳服、石、古出來、手代、赤塚、相生、	裏筒井、梅枝、車道東、車道 <sub>自一丁目至七丁目</sub> 、黑門、山口、前ノ、松山、	豎代官、高岳、寶、添地、筒井、鶴重、中市場、長塀、七小、鍋屋、	大津、小川、往還、上豎杉ノ、萱屋、蒲燒、神樂、橫代官、芳野	久寺、八軒家、針屋、西二葉、西新 <sub>一丁目</sub> 、西魚、布池、大會根、	飯田、石神堂、伊勢、板屋、平田、富澤、研屋、舍人、主稅、長

西區	
地名	市園
東槿木、東新、東櫻、東袋、東新道、東外堀、七間、百人、久屋森下、關鍛冶、水筒先、駿河、杉ノ、南久屋 <small>自一丁目至三丁目</small> 、七曲 <small>自二丁目至三丁目</small> 、辰巳	伊倉、和泉、井桁、六句、花ノ木、庭、堀詰、奉公人、本、堀内泥、千歳、茶屋、橋詰、馬喰、西萬、西菅原、西柳、大船、小田原、押切、桶屋、上仲、上園、上淺間、上長者、紙漉、替地、玉屋、臺所、俵、園井、外田、長島、那古野、裏塩、上島、車、桑名、山神、藪下、八坂、柳、前ノ川、伏見、深井、吹出、船入、小鳥、小舟、五條、五平藏、米屋、江中、江川、江川横、江川端、江戸屋、枝郷、傳馬、手木、明道、澤井、早苗、北驛、北野、北鷹匠、南驛、南押切、下園、下長者、下淺間、新道、新屋敷、白堀、島田、塩、志摩、東柳、東萬、南外堀 <small>自一丁目至六丁目</small> 、木挽、本重、樋ノ口、平野、比米、泥江、淺間、數寄屋、隅田、袋、皆戶、菅原、花車、上笹島、材木、島崎、廣井、中ノ目 <small>一丁目</small> 、豎三藏 <small>一丁目</small> 、長畝

中區	
地名	市園
伊勢山、岩井、入江、花園、西角、富岡、常盤、旅籠、白山、西洲崎、西脇、西瓦、大阪、音羽、若松、上堀川、上前津、上日置葛、金澤、水主、春日、横三ッ藏、豎三ッ藏 <small>二丁目</small> 、橋、蘇鐵、月見、根津、禰宜、中ノ目 <small>三丁目</small> 、流川、七曲 <small>三丁目</small> 、納屋、裏門前、梅園、梅川、八百屋、鶯谷、役割、矢場、正木、前塚、松重、不二見、古郷、古渡、小林、蛭子、永樂、榎、鐵砲、天王、吾妻、飴屋、榮、北禰宜、宮出、三輪、南辰巳、南伏見、南鍛冶屋、南新 <small>二丁目</small> 、南吳服、南桑名、南大津、南長島、南禰宜、南園、南瓦、南伊勢、下前津、下堀川、下奥田、下茶屋、下日置、新柳、白川、城代、下笹島、下廣井、東瓦、東洲崎、東田、東橋、東角、日出、東古渡、門前、末廣、住吉、新榮、南小川、車道 <small>八丁目</small> 、南武平 <small>自三丁目至五丁目</small> 、西新 <small>二丁目</small> 、南久屋 <small>四丁目</small> 、笹島、内屋敷、池田、奥田、鶴舞、松枝、西松枝、大池、板橋、西境、養老、老松、宮前、西塚、塚越、千早、東陽、西川端、向田、丸田、東川端、大井、元田、東古渡、松島、藪田、流、松元、三田、葉場、長岡、西白山	



南 區
名古屋市熱田區 中瀬町 百二十番ノ二 熱田神戸、熱田内田、熱田須賀、熱田市場、熱田中瀬、熱田新宮 坂、熱田富江、熱田傳馬、熱田羽城、熱田大瀬子、熱田木免、熱 田白鳥、熱田田中、熱田旗屋、熱田西、熱田新尾頭、熱田尾頭、熱田 東、熱田新田東組、熱田前新田、千年、稻永新田、築地、東築地

担保公債証書價格ノ件

(明治四十二年三月二十五日 告示 第二二號)

本市ノ受負入札及身元保証金代用其他担保トシテ差出スヘキ公債証書ノ價格ハ自今券面金額ニ依ル

市吏員及使丁過怠金徵收手續

(明治二十五年八月十八日  
參事會決議)

一 市制第六十四條第五項ニヨリ市吏員及使丁ニ過怠金ノ處分相成タルトキ該處分書交付ノ日ヨリ十五日以内ニ納付セサルトキハ之ヲ督促シ尙完納セサルトキハ給料ヨリ扣除シ其扣除シタル金額ヲ市制第八十八條市收入ニ編入ス

服忌令減殺表

身 續	服忌令定式日數		同上減殺日限
	服忌	服	
父 母	五 十 日	十 三 夕 月	十 四 日
養 父 母	全	全	全
離 別 / 母	全	全	十 日
嫡 孫 承 祖	全	全	十 四 日
祖 父 母	三 十 日	百 五 十 日	七 日
離 別 / 祖 父 母	全	全	五 日
伯 叔 父 母	二 十 日	九 十 日	全
母 方 祖 父 母	全	全	全
曾 祖 父 母	全	全	全

高祖父母	嫡孫	女子	末子	異父兄弟姊妹	母方伯叔父母	嫡母	繼父母	養嗣子	嫡子	妻	兄弟姊妹
全	全	全	全	全	全	全	十日	全	全	全	二十日
全	全	全	全	全	全	全	三十日	全	全	全	九十日
全	全	全	全	全	全	全	三日	全	五日	七日	五日

夫	小兒七歲未滿	母方曾祖父母	妾子アルモノ	母方從兄弟姊妹	從兄弟姊妹	甥姪	玄孫	曾孫	孫女	末孫
三十日	ナシ	ナシ	ナシ	全	全	全	全	全	全	三日
十三ヶ月	ナシ 父母ハ 三日遠慮	ナシ 一日遠慮	ナシ 三日遠慮	全	全	全	全	全	全	七日
	全	全	一日遠慮	全	全	全	全	全	全	二日

事務多忙ノ際ハ各課長ノ申出ニ據リ尙減殺スルコトアルヘシ

附  
錄

市制並關係法規

附  
錄

市制並關係法規

市制

市税及町村税賦課ニ關スル件……………(明治四十四年九月)五九  
勅令第二四一號

市税及町村税ノ徴收ニ關スル件……………(明治四十四年九月)六一  
勅令第二四二號

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定ノ件……………(明治四十四年九月)六三  
内務省令第十四號

市町村財務規程……………(明治四十四年九月)六五  
内務省令第十五號

市町村吏員服務紀律……………(全)上(七一)

市町村吏員事務引繼ニ關スル件……………(明治四十四年九月)七三  
内務省令第十七號

市制第六十九條及町村制第四百九條ニ依ル命令ノ件……………(大正)元年八月(七五)  
勅令第十八號

市制

(明治四十四年四月) 法律第六十八號

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市住民及其ノ權利義務

第三款 市條例及市規則

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第二款 職務權限

第五章 給料及給與

第六章 市ノ財務

附錄 市制並關係法規

市制

市税及町村税賦課ニ關スル件……………(明治四十四年九月)五九  
 勅令第二四一號  
 市税及町村税ノ徵收ニ關スル件……………(明治四十四年九月)六一  
 勅令第二四二號  
 市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定ノ件……………(明治四十四年九月)六三  
 內務省令第十四號  
 市町村財務規程……………(明治四十四年九月)六五  
 內務省令第十五號  
 市町村吏員服務紀律……………(全)七一  
 市町村吏員事務引繼ニ關スル件……………(明治四十四年九月)七三  
 內務省令第十七號  
 市制第六十九條及町村制第四百十九條ニ依ル命令ノ件……………(大正元年八月)七五  
 勅令第十八號

市制

(明治四十四年四月)法律第六十八號

第一章 總則

- 第一款 市及其ノ區域
- 第二款 市住民及其ノ權利義務
- 第三款 市條例及市規則
- 第二章 市會
  - 第一款 組織及選舉
  - 第二款 職務權限
- 第三章 市參事會
  - 第一款 組織及選舉
  - 第二款 職務權限
- 第四章 市吏員
  - 第一款 組織選舉及任免
  - 第二款 職務權限
- 第五章 給料及給與
- 第六章 市ノ財務

附錄 市制並關係法規



- 第一款 財產營造物及市稅
- 第二款 歲入出豫算及決算
- 第七章 市ノ一部ノ事務
- 第八章 市町村組合
- 第九章 市ノ監督
- 第十章 雜則

市制

第一章 總 則

第一款 市及其ノ區域

- 第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル
- 第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第三條 市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム
- 前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム
- 第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルト

キハ前項ノ例ニ依ル

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス  
市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額貳圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラレルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラレル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ

擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタルモノ其處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタ

ルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其執行ヲ終リ若クハ其ノ執行ヲ受ルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スハシ

第一章 市 會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス  
議員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口五萬未滿ノ市 三十人
- 二 人口五萬以上十五萬未滿ノ市 三十六人
- 三 人口十五萬以上二十萬未滿ノ市 三十九人

四 人口二十萬以上三十萬未滿ノ市 四十二人

五 人口三十萬以上ノ市 四十五人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度

ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分チテ三級トス

選舉人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市税ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納税者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テ年齢ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セラルコトヲ得  
直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納税額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ  
第二項乃至第四項及前項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ

適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市税若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課税ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニヨリ其ノ申出ナキトキハ市長其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス二級選舉人ニ付亦同シ

被選舉人ハ各選舉區ニ通シテ選舉セラルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラ

レタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルト

キ又ハ等級若ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ

異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異議ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中闕員ヲ生シ其ノ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ

府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載

セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役

所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者

ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間滿了後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選舉分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラレサルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市税又ハ直接國税ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登録セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用フ縦覽、修正、確

定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 市長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ  
各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ撰舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行ヘシ  
選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ撰舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

各選舉區ノ選舉會ニ市長又ハ其ノ指名シタル吏員第六條ノ市ニ於テニ區長ニ選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ市長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長第六條ノ市ニ於テハ區長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキ又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設ケヘシ  
選舉立會人ニ名譽職トス

第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セサムヘシ  
前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條 選舉ハ無記名票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過シルモ投票ヲナスコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ  
選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少シトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十六條 増員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齢二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治産者及準禁治産者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齢二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者、第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ  
第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ  
二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用非タル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シタトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ撰選長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ



第三十一條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又

ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄第六條ノ市ニ於テハ其ノ謄本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市

ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ

申立ツヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日

ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テ

サルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サ

レハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立

テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應ス

ヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ

定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告

スヘシ

第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ

又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告

示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル

場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十六條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日

ヨリ當選ニ關シテハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツル

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ

受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一

項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日

以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得  
前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス  
第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコト  
ヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得  
第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起  
スルコトヲ得

市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ  
議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條 當選無効ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ  
定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行  
フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ニ處セ  
ラレタル者ヲ除クノ外其ノ被選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス

市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘ

シ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又  
ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事  
市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テ  
ハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

前項ノ罰則中選舉ハニ關スル規定ハ第二十七條ノ代人ニ之ヲ準用ス

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
- 二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定ア

- ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市税又ハ夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事
- 六 不動産ノ監理處分及取得ニ關スル事
- 七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事
- 十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事
- 第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得
- 第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ
- 第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ  
市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ  
議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ加ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス  
前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ

招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得  
招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル  
場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ議會ニ付スルコトヲ得三  
日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ  
市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレバ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ  
第五十四條ノ除外ノ爲半數ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ  
滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數  
ニ滿タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル  
第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事  
件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出  
席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ  
除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過

半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム  
其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキハ議長抽籤シテ  
之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長  
者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議ア  
ルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコト  
ヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス  
一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ  
前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須非ス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス  
第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議  
長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ

禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得  
第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧嘩ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求トルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム  
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ三日以内出席

ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

### 第三章 市參事會

#### 第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役

三 名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ増加スルコトヲ得

名譽職參事會員ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選舉ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第二款 職務權限

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事
- 三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條 市參事床ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿サルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

名譽職市參與ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其

ノ市ニ對シ請負ヲ爲スコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル

業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項並前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員名譽職參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲メ市公民タル者ニシテ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス  
前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案



ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁

決ヲ請フヘシ

前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 市會成立セサルトキ第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ  
前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス  
助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務並國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第一百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

### 第五章 給料及給與

第一百四條 名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百五條 市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第一百六條 有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第一百七條 費用辨償、報酬給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
 前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
 第八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助  
 料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章 市ノ財務

第一款 財産營造物及市稅

第九條 收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ  
 市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得  
 第十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スルモノ  
 アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ  
 前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得  
 第十一條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得  
 第十二條 市ハ第十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シ  
 テハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得  
 第十三條 市ハ營造物ノ使用料ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得  
 市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得  
 第十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘ

シ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ  
 市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔  
 ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ  
 屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル  
 コトヲ得

第十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二、特別稅  
 直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七  
 條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ  
 第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家

屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在市ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第二十三條 市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百二十六條 非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石

竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市内ノ

居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑

定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ内

務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣

知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二百二十七條 市税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間

營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲

スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第二百二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年

度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市税ヲ减免スルコトヲ得

第二百二十九條 使用料手數料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス

ヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クル

コトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不

服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百十條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵

稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アル

トキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百一十一條 市税、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期  
内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ  
納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ  
付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得  
滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルト  
キハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效  
ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ  
不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百十二條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又

ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スコト付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法  
ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第三百十三條 市長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ一月前ニ市會  
ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第三百十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第三百十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノ  
ハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘ  
シ

第三百三十八條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百三十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非カレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他ノ財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコ

トヲ得ス

第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

### 第七章 市ノ一部ノ事務

第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第四百十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ



區會議員ノ選舉ニ付テハ前條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得  
區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ內  
務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四百十八條 第四百十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令  
ヲ以テ之ヲ定ム

### 第八章 市町村組合

第四百十九條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許  
可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ  
議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

市町村組合ハ法人トス

第五十條 市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲  
サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ  
議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコ  
トヲ得

第五十一條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣  
知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ  
議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第五十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共同事務、組  
合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用  
ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第五十三條 市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許  
可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ  
議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第五十四條 第五十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ  
關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町  
村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第五十五條 第四百十九條第一項第五十條第一項第五十一條第一項第五十三條  
第一項及前條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市町村組合ハ

内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
 組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月  
 以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ府縣參事會ニ  
 訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
 前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
 第二百五十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關  
 スル規定ヲ準用ス

第九章 市ノ監督

第二百五十七條 市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス  
 第二百五十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分  
 ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
 第二百五十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願  
 スルコトヲ得ス  
 第二百六十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日  
 以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ  
 異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル  
 異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スル  
 コトヲ得  
 異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ  
 異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者  
 ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第六十一條 監督官廳ハ市ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ書類  
 帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得  
 監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得  
 上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ  
 取消スコトヲ得

第六十二條 内務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得  
 市會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第六十三條 市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算  
 ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得  
 市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受

ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十四條 市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者

ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場

合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 市條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事

第六十六條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 市債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但

シ第三百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

四 使用料手数料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事

三 第一百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

七 第二百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔

セシムル事

八 第二百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課

ヲ爲ス事

九 第二百五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課ス

ル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第六十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セ

スト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ

職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第七十條 府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員

其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得ス

第一百七十一條 市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ

以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章 雜 則

第一百七十二條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第一百七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第七十四條第十三條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一百七十五條 本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム  
第一百七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第一百七十七條 本法ハ町村制第五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セス

第一百七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第一百七十九條 本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依

ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ  
本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日  
ニ於テ其ノ職ヲ失フ

第一百八十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又  
ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス  
舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス  
第一百八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

### 市稅及町村稅賦課ニ關スル件

明治四十四年九月  
勅令第二四一號

第一條 市町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對ス  
ル本稅ナ分別シテ納メサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ市町村長ハ關係市  
長北海道、沖繩縣  
ノ區長ヲ含ム又ハ町村長戶長又ハ之ニ準ス  
ヘキモノヲ含ムト協議ノ上其ノ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ  
前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ郡内ニ止マルモノハ郡長之ヲ定メ其ノ郡島ヲ含ム以  
下之ニ做フ又ハ數郡若ハ數市ニ涉ルモノハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣北海道ヲ含ム  
以下之ニ做フニ涉ルモノハ內  
務大臣及大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生スルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入  
ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ歩合ヲ定ムヘシ  
府縣ニ於テ數府縣ニ涉ル營業ニ對シ營業稅附加稅賦課ノ歩合ヲ定メタルモノアルトキ  
ハ其ノ歩合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做ス

第二條 鑛區砂鑛區域ヲ含ム  
以下之ニ做フカ市町村ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅砂鑛區  
稅ヲ含ムノ附加稅ヲ賦課  
セムトスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ  
賦課スヘシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ鑛產稅  
ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル鑛區カ營業所所在ノ市町村ノ内外ニ

涉ル場合亦同シ

第三條 住所滞在市町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ  
前項ノ住所又ハ滞在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滞在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セズ其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滞在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十四年度ノ課稅ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

市稅及町村稅ノ徵收ニ關スル件

明治四十四年九月  
勅令第二四二號

市稅及町村稅徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一及第四條ノ三乃至第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ  
市ヲ指定ノ件

明治四十四年九月  
内務省令第十四號

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ  
名古屋市

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 市町村財務規程

明治四十四年九月  
內務省令第十五號

第一條 市町村稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲入ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 市町村條例又ハ豫メ市町村會ノ議決ヲ以テ納期ヲ定メタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 定期ニ賦課スルコトヲ得サルカ爲特ニ納期ヲ定メタル收入又ハ隨時ノ收入ニシテ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書等ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第四條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度



- 二 通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
- 三 缺損補填ハ其ノ補填ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 四 前各號ニ掲クルモノヲ除ク外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 第五條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ但シ市町村條例ノ規程又ハ市町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 市町村稅ハ徵稅令書ニ依リ使用料、手数料及物件ノ賃貸料ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收ス
- 前項以外ノ收入ハ納付書ニ依リ收入ス
- 第七條 支出ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 左ノ經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得
  - 一 市町村債ノ元利支拂
  - 二 外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費
  - 三 市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費前項ノ現金前渡ハ市町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一 旅費

一 訴訟費用

- 第十條 官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 前三條ニ掲クルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ現金前渡、概算拂又ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 歲入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歲入ヨリ支拂フヘシ
- 歲出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ
- 第十三條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ前條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ
- 第十四條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得
- 第十五條 歲入歲出豫算ハ必要アルトキハ經常臨時ノ二部ニ別ツヘシ
- 歲入歲出豫算ハ之ヲ款項ニ區分スヘシ
- 第十六條 歲入歲出豫算ニハ豫算説明ヲ付スヘシ
- 第十七條 特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十八條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第二十條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第二十一條 會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ヲ充用スルコトヲ得

第二十二條 市ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第二十三條 市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲市町村金庫ヲ置クコトヲ得

第二十四條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ市町村會之ヲ定ム

第二十五條 金庫ハ收入役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市町村ニ對シテ責任ヲ有ス

第二十七條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町村ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ市町村ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市町村ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市町村ニ納付スヘシ

第二十八條 市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十九條 收入役ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ検査スヘシ

第三十條 本令ニ規定スルモノノ外市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 市町村吏員服務規律

明治四十四年九月  
內務省令第十六號

第一條 市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條 市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカ  
ラス

町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條 市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私  
ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指  
揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受ケタル者ニ  
付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ付テハ國府縣其  
ノ他公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四條 市町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ  
贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲナスコトヲ得ス

市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問  
ハス自己若ハ其他ノ者ノ爲ニ贈與其他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニ  
スル者ノ饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲナス者
- 二 市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者
- 三 市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者
- 四 市町村ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
- 五 其ノ他市町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 市町村吏員事務引繼ニ關スル件

明治四十四年九月  
內務省令第十七號

第一條 市町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事  
務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ助役ニ引繼クヘ  
シ此ノ場合ニ於テ助役ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引  
繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ書類帳簿及財産ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫  
スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第一項ノ期間内ニ引繼ヲ了マルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一次監督官廳ノ  
許可ヲ受クヘシ

第二條 助役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ前條  
ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條 收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務  
ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ副收入役又ハ收入  
役代理者ニ引繼クヘシ此場合ニ於テハ副收入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼クコ  
トヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ現金書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テ

ハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添付シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第四條 副收入役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ收入役ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 第一條、第三條又ハ前條ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長若ハ區收入役ノ更迭又ハ分掌事務アル區副收入役ノ退職ノ場合ニ第二條ノ規定ハ分掌事務アル町村區長ノ退職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 市町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ前市町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ市町村長、收入役又ハ市町村長ノ臨時代理者若ハ職務管掌ノ官吏ニ引繼クヘシ第一條乃至第四條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

第七條 前六條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ市ニ在リテハ府縣知事町村ニ在リテハ郡長ハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得其ノ故ナク引繼ヲ遷延シタルカ爲市町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セサル者ニ付亦同シ

第八條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

市制第六十九條及町村制第四百十九條ニ依ル命令ノ件

大正元年八月 勅令第十八號

第一條 市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事之ヲ許可スヘシ

- 一 公告式、學務委員、基本財産、特別基本財産、積立金穀、造林、傳染病豫防、救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸、退職料、退職給與金、死亡給與金、弔祭料、療治料、遺族扶助料、町村助役ノ定數増加、町村長町村助役ノ有給及ビ町村副收入役設置ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 二 手數料及ビ墓地、火葬場、屠場、家畜市場、公園、病院、温泉、土地、用水其他之ニ類スルモノ、使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 三 町村ノ區會及ビ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事
- 四 條例ヲ廢止スル事
- 五 教育費ニ充ツル爲メ府縣郡ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ル、市町村債ニ關スル事
- 六 小學校ノ建築増築改築ニ關スル費用、傳染病豫防費又ハ急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲メ借入ル、償還一期限内三年以内ノ市町村債ニ關スル事
- 七 借入ノ翌年度ニ於テ償還スル市町村債ニ關スル事但シ借入金ヲ以テ償還スルモノ

二 就テハ此限ニアラズ  
八 村ヲ町トナシ又ハ町ヲ村トナス事

第二條 市町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲グルモノハ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一 市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減シ又ハ之ガ爲メ償還年限ヲ短縮スル事

二 許可ヲ受ケタル市町村債ニ關スル條例又ハ議決ノ定ムル處ニ基キ既定ノ償還年限ヲ延長セズシテ低利借換ヲナシ又ハ繰上償還ヲナス事但シ外資ニ據リタル市町村債ノ借換又ハ外資ヲ以テスル借換ニ就テハ此限ニアラズ

三 特別稅、使用料、手数料、加入金、町村ノ常設委員、町村ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ廢止スル事

四 基本財産、特別基本財産又ハ積立金ノ現金ヲ郵便貯金トナシ又ハ現金若クハ郵便貯金ヲ國債證券若クハ地方債證券ニ換フル事

五 特定ノ目的ノ爲メニスル積立金穀ヲ其目的ノ爲メ處分スル事

六 二年度ヲ越エザル繼續費ヲ定メ又ハ其年期内ニ於テ之ヲ變更スル事

七 明治三十二年勅令第三百十六號第二條ノ規定ニヨリ府縣費ノ分賦ヲ受ケタル市ニ於テ明治十三年十七號布告第一條及ビ第二條ニ掲グル種類ト同種類ノ特別稅ヲ賦

課スル事但シ漁業稅、採藻稅ニシテ從來ノ慣例ヲ改正シ又ハ新ニ賦課スルモノニ就テハ此限ニアラズ

八 耕地整理ノ爲メ町村ノ境界ヲ變更スル事及ビ之ニ伴フ財産處分ニ關スル事但シ郡市ノ境界ニ關スル時、町村會ノ意見ヲ異ニスル時又ハ財産ニ變更ヲ及ボスベキ場合ハ此限ニアラズ

附 則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年勅令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

大正二年四月二十五日印刷  
大正二年四月三十日發行

發行者

名古屋市役所

印刷者

愛知縣愛知郡御器所村大字御器所二十番地  
東崎作藏

印刷所

名古屋市中區天王崎町三十九番地  
合資會社 長谷川活版所

終

